

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動療育特化型 児童デイサービス ぽぶらの樹平野			
○保護者評価実施期間	2025年 3月 21日		～	2025年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	2名
○従業者評価実施期間	2025年 3月 21日		～	2025年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	2名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動の内容の豊富さ	・理学療法士や外国籍のスタッフなどそれぞれの資格や特技を活動に入れている。 ・また、その活動がどんな意図をもって行うのかを保護者様向けに手紙をつけている	・月毎の活動テーマの導入 ・選択制の活動を取り入れる ・SNSなどで新しいアイデアを探し、とりいれる。
2	日常生活のスキルを学べる	・毎来所時行う事で、反復して練習していき【般化】できるようにサポート ・学校のように座学ではなく体験しながら学んでいく ・個別フォローをし出来たという達成感を感じてもらう	・当番制の導入 ・生活スキル強化週間の実施（家庭との連携をはかりより般化できるようにする）
3	多年齢層の関り	年下の子どもが年上の子の行動を真似しようとする声かけ、年上の子が「見本になる」ことで、自信を持ち、自己肯定感が高目られる声かけを行う 年齢や発達の違いに応じた関わりを経験することで、相手に合わせた力加減や話し方などを身につける。	・年齢に応じた役割を与える。 ・ペアや小集団での活動をする行事を行い児童同士の深いかかわりをつくる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援記録、書類業務の効率化	・より質の高い支援を行うために書類業務の時間配分を減らし、新たな療育方法を模索、療育に使用している道具のメンテナンスにあてる時間を作る為	・記録の分担・担当者の記憶が新しいうちに記入できるように時間を設ける ・作業フローの見直し ・記録の音声入力導入
2	環境整備の見直し	・重度心身児童の卒業により活動スペースが増えた。 ・大きな事故などは現状起きていないが今後起こる可能性を考え安全性の強化の為	・学習スペースと運動スペース、クールダウンエリアの作成 ・各エリアの区別が出来るようにする。 ・老朽化している備品の交換
3	家族支援の充実化	・送迎時のコミュニケーション、半年に1回と必要に応じての懇談を行っている。しかし、保護者様の特性や家庭状況等の都合により十分な相談、ケアができていない可能性がある為	・新学期など児童が不安定になりやすい時期にスタッフからの保護者様の悩みなどの聞き取り ・保護者会など保護者同士で関わる機会を設けていく